

第 20 回日本消化管学会総会学術集会・第 17 回日本カプセル内視鏡学会学術集
会合同セッション

「小腸疾患診断の最前線」

司会 中村 哲也（獨協学園姫路医療系高等教育
・研究機構先端医療研究センター）
緒方 晴彦（国際医療福祉大学臨床医学研究センター
／山王病院・山王メディカルセンター）

X線造影や CT / MR、バルーン・カプセル内視鏡等の画像検査や血清学的、遺伝子検査等により小腸疾患の診断能は飛躍的に進歩し病態解明へのアプローチの手段も成熟してきた。OGIB、腫瘍性疾患や炎症性疾患（クローン病・ベーチェット病や他の希少疾患を含む）等の小腸疾患に対してどのような modality（の組み合わせ）が多種多彩な病態の的確な診断に有用か、多くの施設から up-to-date な報告を期待する。